

企業名： 上新電機

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

上新電機の総合報告書 2022 の初めに経営理念体系のピラミッド図が書かれており、会社の考えや目標が一目で簡潔に理解できるようになっている。また、自社の社会価値の創造のための方針を外部環境や、重要課題、現在のビジネスモデル、インプットを客観的に分析、図式化し、そこから得たアウトカムをもとに明確に示している。さらに、社長のメッセージや中期経営計画「JT-2023」からも上新電機が目指す将来の姿を読み解くことができる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

上新電機は統合報告書で「家電量販店業界でトップクラスの売上高・利益率を誇る」と自己評価している。これの背景には、多様な商品のラインアップ、高い顧客満足度、オムニチャンネル戦略、効率的な経営基盤、人材育成・活用などの強みがあるとしている。事実、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたものの、当期純利益は過去最高の売り上げを記録し、過去最高益となった 2020 年度に続き、過去 2 番目の記録を更新しているため、同業界において他社と差別化するための十分な競争優位性を持っていると感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

市場環境や消費者ニーズが変化しやすい業界において、自社の競争優位性をもとに、飛躍のための段階を踏んだ中期経営計画「JT-2020」を示し、過去最高の売り上げを記録した 2020 年度まで安定的な成長を続けていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「JT-2020」の次の中期経営計画となる「JT-2023」は客観的な分析から、修正を行っている。

自社の競争優位性を十分に発揮できるような計画へと新たに修正していることから、持続性はあると感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

上新電機では従業員を「最も重要なステークホルダーであり、会社の成長と発展に欠かせない存在」として位置付けている。これは、従業員満足度向上、人材育成・キャリア支援、ダイバーシティ・インクルージョン推進、働き方改革推進などの取り組みからも読み取れる。また、延べ有資格者数も年々増加していることから、人的資本の価値向上が見込まれると感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書では、自社が掲げるビジョンや計画を図式化し、具体的な説明を明確に示しているため非常に伝わりやすい形となっていると感じた。改善点としては、業界における自社の立ち位置を明確に示し、自社の武器や改善点をより明確に記載すべきであることが挙げられる。